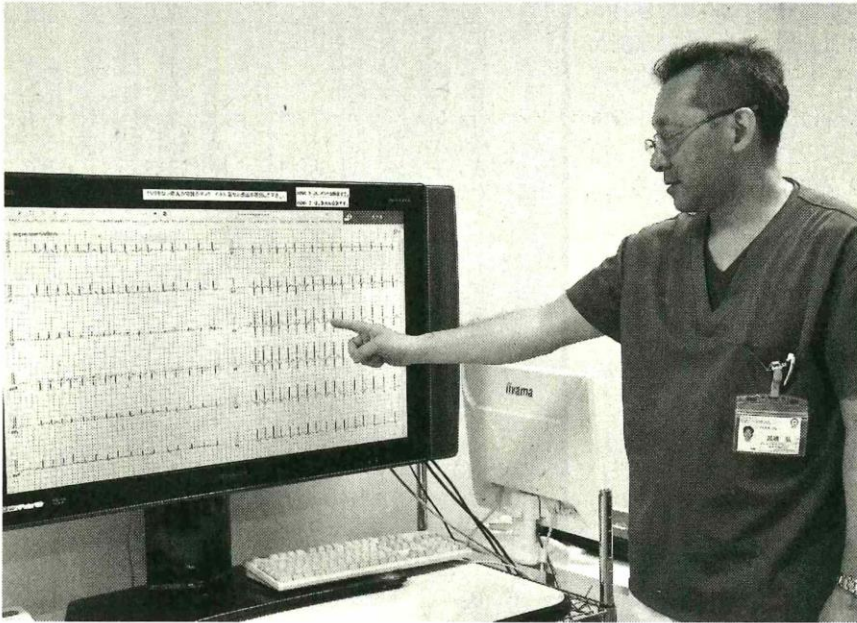


迅速な治療に効果

12誘導心電図伝送システム試験運用

製鉄記念室蘭病院(前田征洋病院長)と、室蘭・登別両市の消防本部が、今年4月から試験運用(実証実験)している「12誘導心電図伝送システム」。不安定狭心症や急性心筋梗塞などの「急性冠症候群」で、救急搬送される患者の迅速な治療につながるなど、救命に威力を発揮している。同病院は「(救急車内で測定された)心電図が患者到着前に病院に伝送されること」で、より適切な治療が可能」と効果を伝えている。(松岡秀直)

製鉄記念室蘭病院 室蘭、登別の消防本部



「12誘導心電図伝送システム」による心電図データと、効果などを説明する製鉄記念室蘭病院の高橋循環器内科科長

このシステムは、総合医療機器グループ・メハーゲングループ(本社福岡市)が開発した「クラウド型12誘導心電図伝送システム」。救急出動した現場で、救急隊員らが患者の心電図を測定すると、データがサーバーに伝送され、医師らがデータを閲覧。症状を確認したり、診断や治療方針の決定、治療チームの招集、手術室の準備なども可能になる。

このため、発症から6分で導入されているが、道内での運用は初。今年4月から室蘭市、登別市の消防本部の救急車各1台の計2台で始めた。同病院によると、運用開始から今月6日まで、同システムで心電図が伝送されたケースは計38件。このうち、急性冠症候群は3件。いずれも病院到着前に治療の準備が効率的に始められた。など、「初期対応の時間が短縮できたり、早期の治療ができた」(高橋科長)

また、「心電図データから脳疾患の疑い」と判断できたことで、室蘭市内の他病院への搬送を促すなど、救急医療の初期段階でより効果的な対応にもつながっている。

西胆振医療圏(西胆振3市3町)では現在、循環器疾患が疑われる救急患者の大半が同病院に運ばれている。高橋科長は「このシステムによって、受け入れ前に急性冠症候

病院到着前の準備円滑に

時間以内に治療を受けることができれば、心臓のダメージを最小限にとどめることができる」といわれる急性心筋梗塞や、迅速な対応が求められる不安定狭心症などの心疾患で、「救命や、早期の社会復帰率の向上に大きく期待できる」(高橋循環器内科科長)。さらに、静止画や動画送信もできるため、患者の表情などの確認も可能だ。

このシステムは、既に横浜や岩手県宮古市などで導入されているが、道内での運用は初。今年4月から室蘭市、登別市の消防本部の救急車各1台の計2台で始めた。同病院によると、運用開始から今月6日まで、同システムで心電図が伝送されたケースは計38件。このうち、急性冠症候群は3件。いずれも病院到着前に治療の準備が効率的に始められた。など、「初期対応の時間が短縮できたり、早期の治療ができた」(高橋科長)

また、「心電図データから脳疾患の疑い」と判断できたことで、室蘭市内の他病院への搬送を促すなど、救急医療の初期段階でより効果的な対応にもつながっている。

西胆振医療圏(西胆振3市3町)では現在、循環器疾患が疑われる救急患者の大半が同病院に運ばれている。高橋科長は「このシステムによって、受け入れ前に急性冠症候

群の判別が可能」とし、「急性冠症候群の治療は時間が勝負。胸が痛い、などの症状や違和感があったら、救急車を活用してほしい」と呼び掛けている。

【12誘導心電図】四肢と胸部の計10カ所に電極を装着し、計12チャンネルの波形を記録する心電図。健康診断などで用いられ、1種類の波形を確認する「3点誘導心電図(モニター心電図)」と比べ、異なる部位からの波形も取れることに加え、心臓の電気的活動について立体的なものとして知ることができると、急性心筋梗塞などの診断に有用とされる。